



## 答え合わせ・解説

問1	答え 2 近郊農業	茨城県は広大な関東平野に位置し、高速道路網などを通じて大消費地である東京へ短時間で農産物を運ぶことができます。このように消費地のすぐ近くで新鮮な農作物を生産し供給する形態を近郊農業と呼びます。野菜は鮮度が重要視されるため、この立地条件は大きな強みとなります。
問2	答え 1 右手の親指を電流の向きに合わせたとき、残りの指が巻く向きが磁界の向きである。	電流がつくる磁界の向きを特定するには、右手を利用するのが一般的です。直線状の導線（長方形コイルの各辺）に流れる電流の場合、親指を電流の流れる向きに突き出し、他の4本の指で導線を握るように曲げたとき、その指の指先が示す円周方向が磁界の向きとなります。これによって、方位磁針を置いた際、N極がどちらに振れるかを論理的に導き出すことができます。
問3	答え 1 企業の自由な競争を促すことで、経済全体の活性化を図るため	規制緩和は、これまで政府が行ってきた法的な制限を縮小し、民間企業の創意工夫や自由な参入を促すことを目指しています。競争が活発になることで、商品やサービスの価格低下、品質の向上、新しいビジネスの創出などが期待され、結果として経済が活性化すると考えられています。
問4	答え 1 薩摩藩や長州藩などの一部の出身者が権力を独占する藩閥政治を批判し、広く公衆の議論を反映させる議会の設置を求めるため。	当時の政府は、大久保利通ら薩摩・長州・土佐・肥前の4藩の出身者が主要なポストを占める「専制政治」を行っていました。建白書では、一部の役人だけで物事を決めるのではなく、民衆によって選ばれた議員が国政に参加する「民撰議院」を立てることで、国家の危機を救うべきであると主張されました。
問5	答え 1 マグネシウム原子が電子を放出して陽イオンになり、亜鉛イオンがその電子を受け取って原子になる	陽イオンになりやすい金属ほど、原子が電子を放出してイオンになろうとする性質が強くなります。マグネシウムは亜鉛よりも陽イオンになりやすいため、マグネシウム原子が電子を放出してマグネシウムイオンになります。この放出された電子を、水溶液中に存在していた亜鉛イオンが受け取ることで、亜鉛原子となって析出するという原理に基づいています。
問6	答え 3 百舌鳥・古市古墳群	大仙古墳は、大阪府堺市の「百舌鳥（もず）古墳群」を代表する古墳です。隣接する羽曳野市・藤井寺市の「古市（ふるいち）古墳群」とともに、古代日本の国家形成過程や階層社会を象徴する物証として評価され、「百舌鳥・古市古墳群—古代日本の墳墓群—」として世界文化遺産に登録されました。
問7	答え 1 磁界が強い磁極付近では、磁力線の間隔を狭く描く。	鉄粉が密集してはっきりとした模様を作る場所は、磁力が強く働いている、つまり磁界が強い場所であることを意味します。磁力線を描くルールとして、磁界が強い場所ほど磁力線の密度を高く（間隔を狭く）表現するため、磁極付近の磁力線は非常に密集した状態で描かれます。
問8	答え 1 バブル経済	1980年代後半に発生したこの現象は、中身のない泡が膨らむ様子に例えて「バブル経済」と呼ばれます。銀行からの融資が不動産や株式の購入に充てられ、実体経済を伴わない価格上昇が続きました。1950年代半ばから1970年代初頭まで続いた「高度経済成長」とは、その背景や発生時期が明確に異なります。
問9	答え 1 柱状図を用いて対比する	特定の地点における地層の積み重なるの順序を柱のような図で表したものを柱状図と呼ぶ。複数の地点の柱状図を並べ、凝灰岩などの鍵層を目印にして地層の重なり方を比べることを対比といい、これにより広い範囲にわたる地層の広がりや傾きを特定することができる。
問10	答え 1 市場経済に基づき、個人の自由な経済活動や私有財産を認める考え方	資本主義陣営は、自由主義や民主主義を政治的な土台とし、経済面では市場のメカニズムを通じて自由に利益を追求できる市場経済を重視しました。これに対し、対立する社会主義陣営は、平等な社会を実現するために国家が経済をコントロールする計画経済を採用していました。冷戦は、こうした政治・経済体制の根本的な「理念の対立」でもありました。
問11	答え 1 国民が自ら保険料を積み立て、病気や老齢の際にそれに基づいた給付を受ける制度である。	社会保険の最大の特徴は、加入者が支払う「保険料」を主な財源としている点にあります。これに対し、生活保護などの「公的扶助」は、生活困窮者を対象に全額を税金（公費）で負担して最低限度の生活を保障する制度です。社会保険は、国民が働く期間に拠出を行うことで、将来の不測の事態に備える権利を得る仕組みになっています。
問12	答え 1 実際の斜面の傾斜が急になっている	等高線は標高の等しい地点を結んだ線であり、地形図上でこの線の間隔が狭いということは、短い水平距離の間に標高が大きく変化していることを意味します。したがって、等高線が密集している場所は、実際の地形では斜面が急であることを示しています。逆に、等高線の間隔が広い場所は、傾斜が緩やかであることを表します。
問13	答え 1 コイル内部の磁界が変化する度合いが、時間あたりで大きくなるため	誘導電流の大きさは、コイルの中を貫く磁力線の変化の度合いによって決まります。磁石を速く動かすと、短い時間で磁界が大きく変化するため、結果として発生する誘導電流は大きくなります。電気抵抗の変化や巻き数の物理的な増加が原因ではありません。